

(4) テーマ4. 「海と陸の連続性と生態系、水際線」

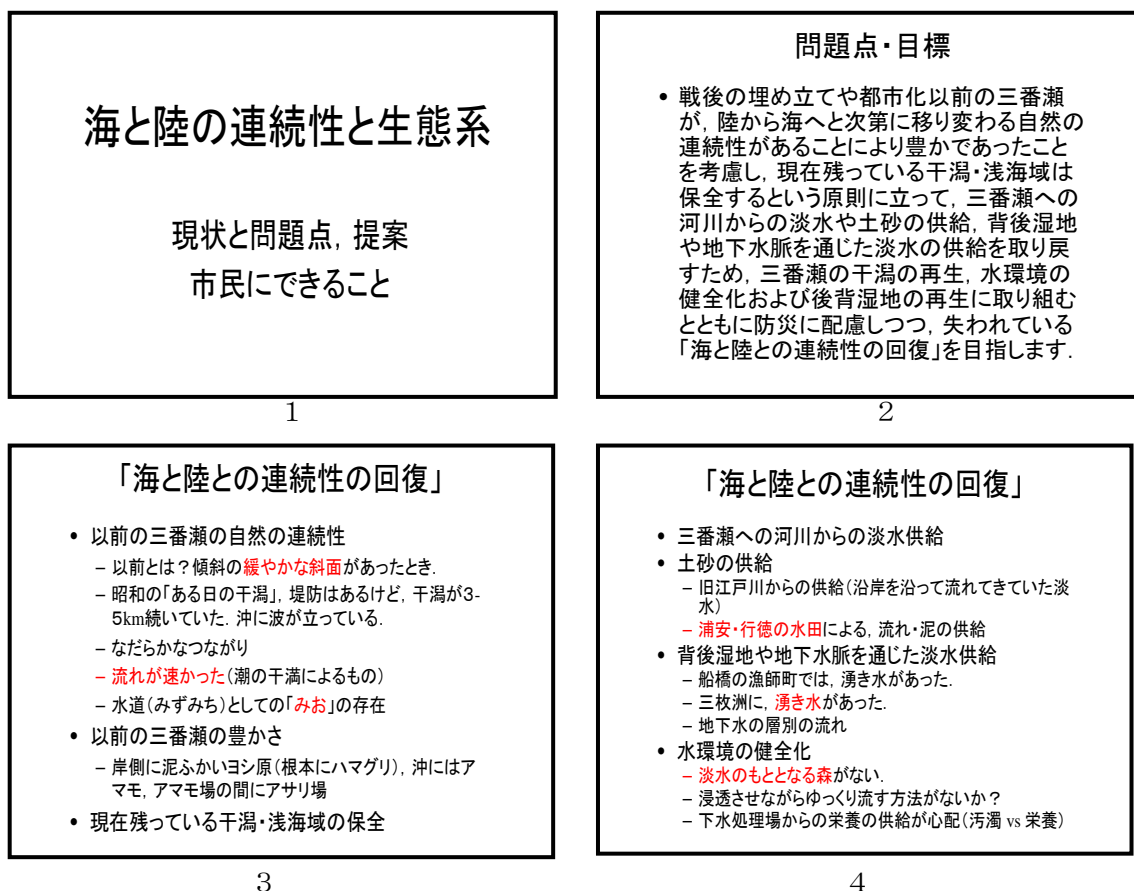
参加者 24名
報告 後藤 隆

アドバイザーの古川さんが分科会のコーディネーターを引き受けて下さり、千葉県三番瀬再生基本計画案の「再生の目標」、「2. 海と陸の連続性の回復」を手がかりに話し合いを進めました。また、若月さんより「伝統工法(粗朶沈床)」の実務も含めた詳細な説明があり、参加者に感銘を与えました。かつての三番瀬の姿、再生により取り戻したい環境、要素、風景を出し合いながら、それを実現するために市民にできることについて話し合いました。

三番瀬再生のために重要な視点を市民が確認し行政に提供していく事、また、市民の手でできる小さな実験を行政とパートナーシップを組んで実行していく事が大切との指摘、河川や流域、下水道を含めた水循環の再生の重要性も指摘されました。

今回の三番瀬フェスタPART2 の試みは、市民が議論し、協力しながら自らの提案を作り上げて行く「ひとつのステップ」であったと言えます。市民が主体的に議論し連携しながら、東京湾・三番瀬の再生への提案につなげて行くことが大切だと痛感しました。

<分科会のまとめ>



「海と陸との連続性の回復」

- 三番瀬の干潟の再生
 - 栄養豊かな三番瀬
 - 風・気象との関連(南風)
 - アオサの問題: 匂い、(塩浜2, 3丁目)→台風で流れていった→潮の流れとの関係
 - 夏場の青潮の発生する、匂いが強い、色がきれい、
 - 干潟・泥の匂い
- 後背湿地の再生
 - 水田が広がる風景
- 防災への配慮
 - 護岸のすべりをとめるための矢板は、透水性があるのか

5

市民にできること

三番瀬再生のために重要な視点を確認し、各施策の計画・評価の時に配慮してもらいたい事項として列挙する

- 森(の機能)を作る試み
- 十分な検討を元にした流れをつくる試み
- 自然になじむ工法・手法の積極的な検討

6

市民にできること

- 森(の機能)を作る試み
 - 防災としてのバッファゾーン
 - 保水性の機能に着目する
 - ミネラルを出す
 - 水田の機能としての森を...
 - 沈水植物を川の中に造成する(川の中に森をつくる)
 - 暗渠を減らす
 - 内陸部と海域をつなぐ視点も重要である(行徳湿地と三番瀬の連携を考える)

7

市民にできること

- 十分な検討を元にした流れをつくる試み
 - 昔、広い干潟が存在したことによる潮汐流があった
 - 淡水供給による流れの創造
 - 三番瀬の流れが悪いところがある
 - 海水交換の悪いところでアサリが死んでしまう
 - 現状の把握が重要
 - 運河を形成しての流れの創造
 - 淡水から汽水にうつる一部としての行徳湿地と三番瀬の連携
 - 流れの環境影響については、十分に配慮する必要がある

8

市民にできること

- 自然になじむ工法・手法の積極的な検討
 - 順応的な方法論の適用
 - 粗朶沈床(単床)の適用
 - 自分たちでできることも、考える
 - 実験的に、進めていく取り組み方も重要
 - 市民レベル(例えば、釣り)での知識を活用する

9